

○団体 : 大阪府 健康医療部 保健医療室 医療対策課

○システム名称 : ORION (Osaka emergency information Research Intelligent Operation Network system)  
救急医療現場における種々の課題の解決を図るために構築

○システム概要 :

### ・ICTを用いた救急搬送支援及び病院検索

救急搬送と受入れに関するルールである「実施基準」をスマホアプリ化し、**傷病者の病態や緊急度判断を支援**するとともに、**医療機関検索を簡易化**。アプリ操作履歴を収集し、救急搬送や実施基準に関する情報を収集。



### ・救急医療に関する情報の集約化

スマートフォンで収集した情報を基に、救急隊活動記録(病院前情報)と医療機関での診療記録(病院後情報)を結合して集積。

→関係機関の事務負担を最小限に抑えつつ、病院前・後情報を一元化して蓄積可能。



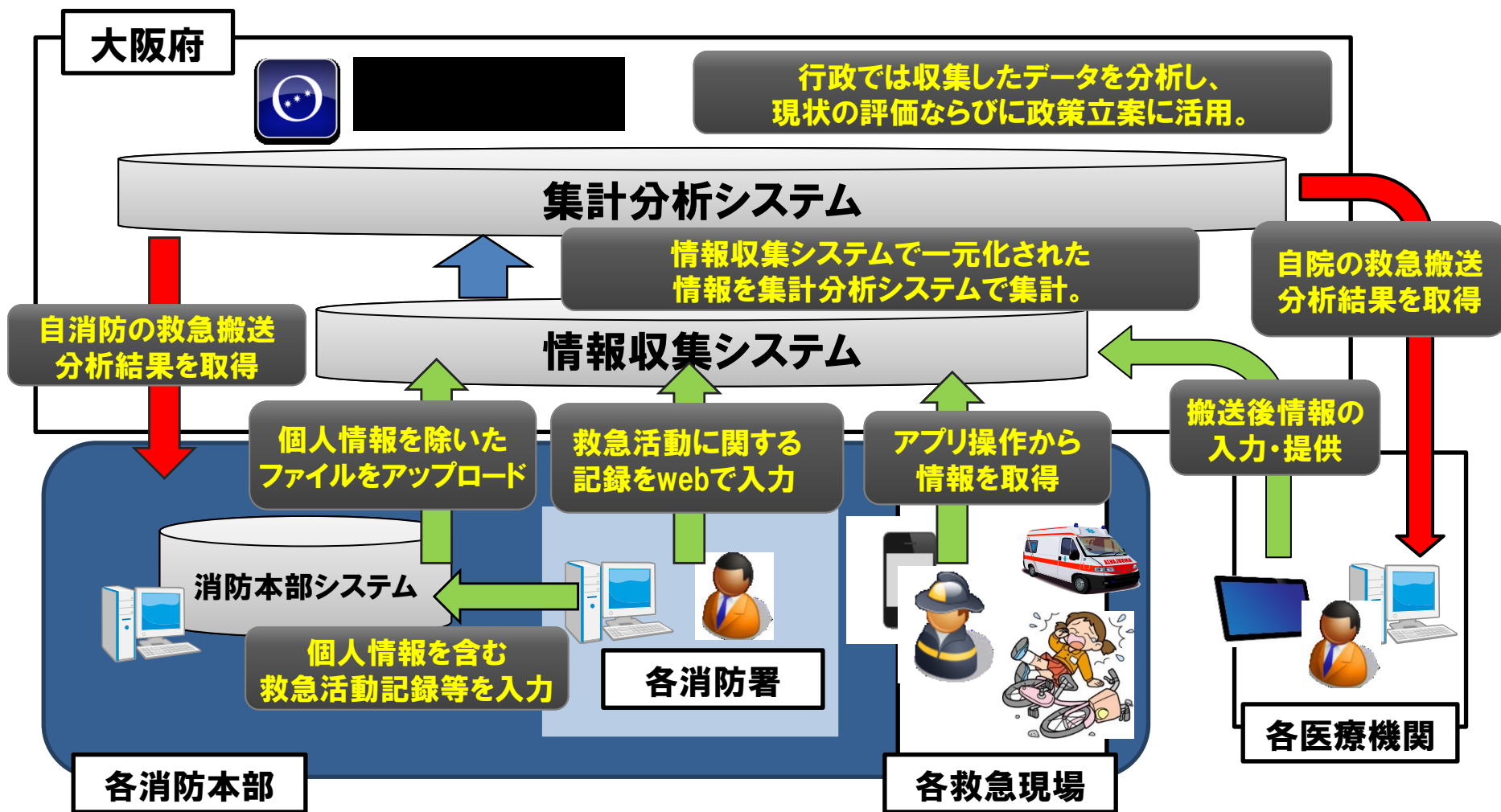
### ・集約された情報の集計・分析

集約された情報を様々な観点から集計することが可能で、事務負担を最小限に抑えつつ、救急医療体制における種々の課題の抽出が可能。

→課題を検証・分析することで、新たな施策展開への重要な根拠となる。



# システムの全体像と導入状況



- ・府内すべての消防機関(27機関)及び救急告示医療機関(250機関)で運用
- ・2015年11月10日現在、延べ**100万件以上**のデータを集積

# まとめ

- 実施基準に沿ったデータベースを構築し、医学的に最適かつ受入可能な医療機関リストを、GPSを利用し直近順に表示することで、迅速で最適な搬送先が決定可能
- 市町村の枠を超えて、医療機関の搬送・受入・診療状況に関する情報を共有することが可能となり、救急搬送が円滑化した
- 対象人口880万人規模という、日本を代表する大都市圏において、不要な手間をかけることなく、地域網羅的に救急搬送に関するデータベースを整備・運用することができ、救急医療体制を評価、検証、分析できる基盤を構築した
- 既に100万件以上のデータが集積しており、これだけの人口を対象とした、救急要請段階から転帰に至るまでの傷病者情報を、一元化して収集するデータベースは世界的にも存在しない